

令和7年度 かほく市立大海小学校 学校評価最終報告書

経営目標	取組内容	主担当	評価の観点	達成度判断基準	児童の評価	保護者の評価	地域の方の評価	教員の評価	達成度(判定)	今後の方向性(改善計画等)	学校運営協議会委員による意見	
1	確かな学力の育成	学習指導部	授業において「主体的に学びを深める工夫」を意識して指導している。	教職員アンケートで80%以上				100%	A	教師の教科の見方・考え方に対する意識の向上が見られた。研究の重点を意識し、授業作りに取り組んでいる。今後は、来年度の具体的な研究の姿について職員全員で話し合い、共有する場を設けたい。	→1月に次年度の学校研究の方向性について、話し合う機会を設けた。「教科の見方・考え方」を働かせて授業に向かう児童の育成については次年度も目指していきたい。次年度はさらに、見取りの場の充実にも努力していきたい。→タブレット端末については、学習のふりかえりの蓄積・共有などの場で活用し、その学習効果について検証していきたい。	
	自分の考えを友達に伝えることができる。		児童アンケートで80%以上	93%				A	今後も児童が考えを表出する場を教師が意図的に設定していく。児童がより主体的に考えを伝えられるように、学習の目的を明確にし、児童同士の関わりが活発になるように働きかけていきたい。			
	授業において、「振り返り」や「適用問題」の時間を確保している。		教職員アンケートで80%以上				100%	A	本時のねらいが確実に達成できるように、適用問題に取り組んだり、学びを自覚できるような振り返りの時間を確保したりしていく。			
	タイムマネジメントを意識し、「振り返り」や「適用問題」の時間を確保する。	GIGA担当	1人1台端末を活用した授業を計画的に行っている。	1人1台端末を活用した授業を週に1~2回以上行っている				63%	C	少人数のため、タブレット端末を活用しての相互交流などにおいて、必要感が薄いことが評価が上がらない原因と思われる。相互交流以外の場面でもタブレット端末が効果的に活用できるように、指導主事を招聘し、校内研修を行った。また、全校児童のタイピングスキルを向上させるために、帯タイムの時間を使って取り組み機会を設けた。		
	より主体的な学習となるために1人1台端末を効果的に活用したICT教育の実践推進											
家庭学習の習慣づけを図る。(10分×学年)	学習指導部	学年に応じた家庭学習の仕方が定着し、進んで取り組んでいる。	「自分の決めた学習時間を守って学習している」児童・保護者アンケートで80%	90%	81%				A	日頃から家庭学習の意義について児童に伝えると共に、「3日間チャレンジ」の取組を活用し、「自分のめあて」「目標時間」等を意識して取り組ませ、家庭学習習慣の向上を図る。		
読書に親しむ習慣化を図る。		朝読書や学年に応じた必読書を設定することで、本を読む習慣をつけ、質の高い本を読んでいる。	年間 次の数値以上 低学年は150冊 中学年は100冊 高学年は80冊	95%					A	目標冊数をほとんどの児童が達成できた。朝読書の時間が確保されていることや、学校司書の様々な取組により、児童の読書量が確実に増えている。しかし、本を読んでも読書記録に残していない児童がいるため、読む習慣、読書記録を書く習慣を共に続けていけるように、時間を確保しながら声かけを続けていく。		
2	いじめ、不登校や問題構造の未然防止と特別支援教育の充実	生徒指導部	問題行動が起きる前に、児童と積極的に関わり、生徒指導主事を中心としたチーム対応で家庭と連携を図り、問題解決ができるようにしている。	教職員アンケートの結果が90%以上				100%	A	いじめが疑われる場合は、管理職、生徒指導担当などへの『報告・連絡・相談』を確実に実行すると共に、事実確認や情報収集を適切に行い、組織的な対応を意識していくことを全職員で徹底していく。	不登校傾向のある児童はいるのか。いるなら何人くらいいるのか。最近、子どもの自殺者増加のニュースを見て心配している。叱られ慣れていないような印象を受ける。大海小では子ども達が安心して学校に行っているのか気になる。→打たれ弱く、失敗を恐れる傾向に感じる。しかし、それが不登校につながっているとは、言い切れない。今度も、自己肯定感を高め、安心して学校に通えるよう、教職員全員で児童の変化を見守り、適切な指導・支援を行っていく。	
	あいさつを通して他者とのよりよい関わりを持たせる。		学校内で出会った人にあいさつができる。	児童・教職員アンケートの結果が90%以上	98%			100%	A	校内・校外問わず、より主体的にあいさつができる大海っ子を目指して、児童会が中心となり、全校へあいさつの大切さについて呼びかける等の機会を充実させていく。また、児童への指導と合わせて保護者への啓発も行っていく。		
	配慮を要する児童への指導、支援の在り方(SSRの運用等)の共通理解を図る。		配慮を要する児童に対して、組織的に取り組んでいる。	教職員アンケート「特別支援コーディネーター及び体制を有効に活用している」の結果が90%以上					100%	A		今後も『学校全体で全校児童を育てる』を継続して意識していく。また、SCと児童の個別面談、校内研修会、心の授業が実施でき、児童が相談できる機会と場の確保や教師の学びの部分で大きな成果があった。今後も特別支援コーディネーターを中心にして取組を進めていく。
	豊かな心をはぐくむ道徳教育の充実を図る。		道徳の授業を通して、道徳的な判断力、実践力が高まっている。	児童:「道徳の授業で、内容項目について考えている」が80%以上 教職員:「道徳では、年間指導計画に基づき、計画的に授業を行っている」が100%	100%				100%	A		計画的に授業を進め、授業公開の機会をもつことができた。地域や家庭に道徳教育の取組を発信するために、全クラスが道徳だよりを発行している。
3	生活習慣の定着と運動能力の向上	保健安全部	養護教諭と連携して、食育や視力低下防止の授業及び活動を推進している。	児童・保護者アンケート「朝食を食べている」が80%以上	98%	100%			A	子どもたちの心身の健やかな成長を支えるため、生活習慣に関する指導を定期的実施した。朝食の必要性については、発達段階に応じた保健指導を行い、未摂取傾向の児童には個別支援を行った。やせ・肥満傾向の児童については、本人や保護者と情報共有し、経過観察や必要に応じた医療機関との連携を進めた。メディア利用に関しては、睡眠への影響を踏まえ、「ハッピー～貯金」の取組後、段階的かつ継続的な個別指導を行い、主体的な改善につなげた。	肥満傾向の子どもの増加しているのではないかと、子ども達の視力低下も気になっている。学校としてどのように対応しているのか。→肥満傾向と視力低下傾向のある児童は、保護者が来校する機会に、養護教諭から個別に声掛けしている。保護者の意識を高めるために、保健だより等で学校から啓発を続けている。	
	「早寝・早起き・朝ご飯」または「視力低下防止」を意識して生活できる。		学校独自の「はっぴ～貯金」の調査で「テレビ・ゲーム・SNSの時間に関する家のルールが守れた」が5日間のうち4日できたが80%以上		97%				A			
	「体力づくり1校1プラン」に取り組んだり、苦手種目を意識した活動を取り入れている。		各学年で、スポチャレに取り組んだり、苦手種目を意識した活動を取り入れている。	教職員アンケートの実施で80%以上				100%	A	月1回、スポチャレいしかわの登録日を設定している。全学年が、種目に応じた目標を設定して、スポチャレに取り組んでいる。1月には、なわとびチャレンジ週間を設けて、児童の体力向上を図ることができた。		
4	教職員の働き方改革の推進	教務部	県全体で行っている勤務時間調査における勤務時間が昨年度を下回る。	勤務時間調査					A	【判断基準】 A: 45時間以下 B: 50時間以下 C: 60時間以下 D: 80時間以下 時間外勤務時間 29.5h ※1月	日課の見直しや会議等の精選を行ったことにより、ゆとりが生まれ、勤務時間内の教材研究の時間が確保できている。職員は効率よく時間を使い、それぞれの仕事を進めている。	教職員の働き方について改善しているとの事だが、実際のところはどうか。→改善している部分もある。業務の無駄を省く工夫をしている。
5	コミュニティスクール事業の推進	学校コーディネーター	総合的な学習や生活科等で地域の素材や人材を生かした授業を行っている	教職員アンケートの実施で90%以上				100%	A	2学期以降も教育課程と照らし合わせながら、大海の特色を生かした活動となるよう、計画的に学校コーディネーターと調整を進めていくことができた。2学期後半は、「ふるさと学習発表会(3~6年)」や「蛍明小学校(3年)」「おもちゃランド(1・2年)」など、異学年や他校との交流を通して、学習成果を発表することができた。	毎年やっているからなど、情性で行事を行うのではなく、何を目的でやるのか、どういう力を子どもたちに付けさせたいのかを話し合せていけるかをはっきりさせていけるかを行うとよい。体験活動は子どもたちにとっても大切なから続けてもらいたい。→今年度の行事を振り返って、担任の意見も聞きながら必要性を考えていくようにする。	
	総合的な学習や生活科等で地域の学習に楽しく取り組んでいる。		児童アンケートの実施で80%以上	95%					A			
	「学校運営協議会」の効果的な運用、学校関係者評価を生かした学校経営を実施する。		家庭や地域との連携に際し、積極的に学校コーディネーターや学校運営協議会を活用している。	教職員アンケートで80%以上 委員アンケートの実施で80%以上				96%	100%	A		・次年度も学校運営協議会で出た意見や評価を基に、よりよい学校になるように、取組を考え実行していく。